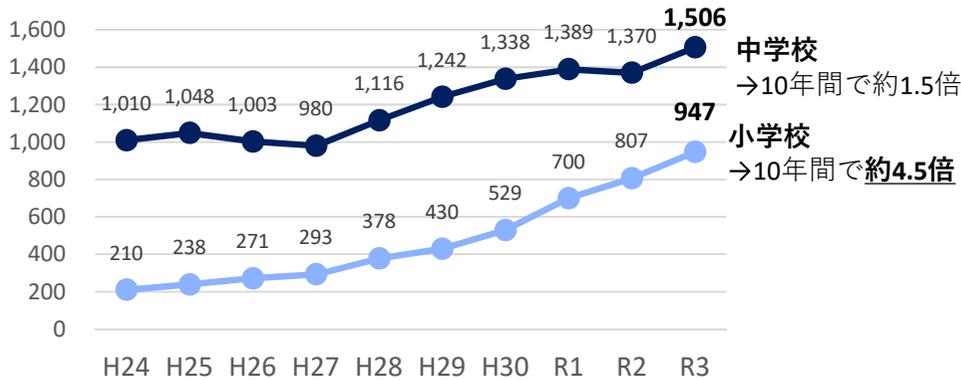


### 1 本市の現状

- 「令和3年度川崎市立小・中学校における児童生徒の問題行動・不登校等調査」における**不登校児童生徒数は、小学校で947人（前年度807人）、中学校で1,506人（前年度1,370人）と過去最多**となっている。
- 特に、小学校において、不登校児童生徒数の増加が著しい。

図1 不登校児童生徒数の推移



### 2 今年度の主な取組

#### (1) 本市の不登校対策の概観

	校内支援	校外支援
未然防止	●かわさき共生＊共育プログラム	●通級指導教室での発達の課題に応じた専門的指導
早期発見	●担任等による丁寧な支援	●教育相談センターの心理臨床相談員による教育相談
初期対応	●校内支援体制づくり（支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー）	●不登校家庭訪問相談員による教育相談
事後対応	●別室での指導	●ICTを活用した学習支援
	●夜間中学校による学び直し	●ゆうゆう広場での支援
		●フリースクール等との連携

#### (2) 今年度の主な取組

##### ①別室での指導に関する調査の実施

- 別室指導を通して、「**登校への不安・緊張**」や「**教室復帰への意識**」などが改善するなど、効果が見られる。
- 特に、**小学校においては、別室指導を受けた児童の約半数が、翌年度、教室復帰**するなど、その効果は高い。
- 一方で、別室指導の実施にあたっては、**①人的配置、②学習内容、③施設環境などの課題**が見られる。

図2 改善したこと、改善が期待できそうなことと回答した割合

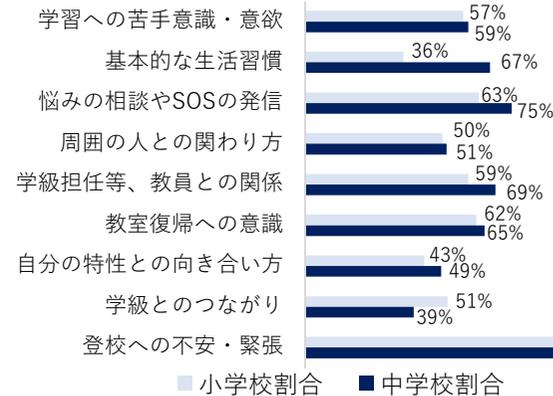


図3 令和3年度別室指導利用者のうち翌年度教室復帰した割合

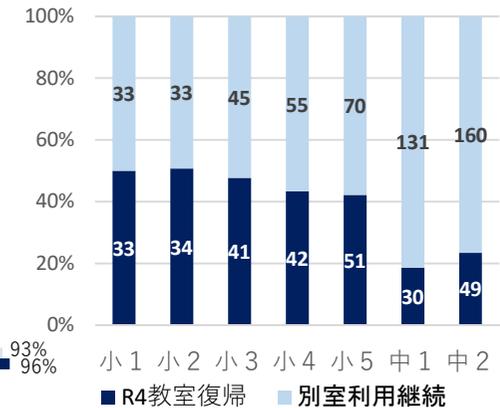
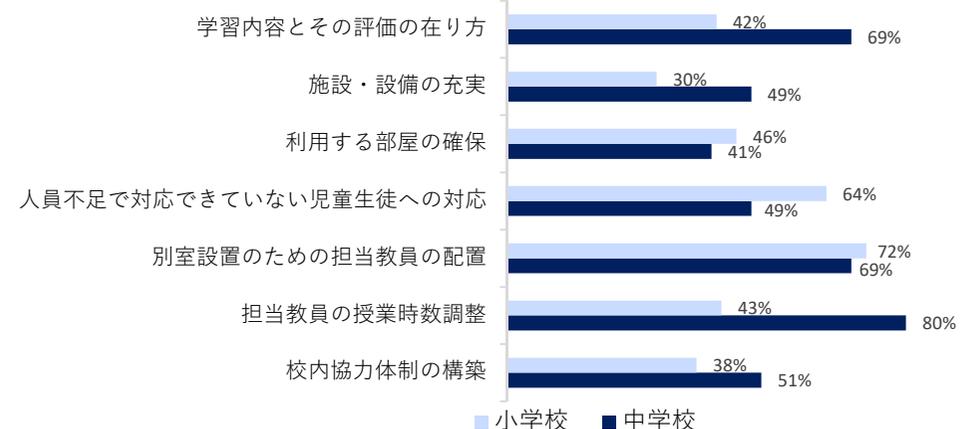


図4 別室指導で課題と考えていること



# 不登校対策の充実に向けた取組について (2 / 2)

## ② ICTを活用した学習支援の実施

- 登校が難しい児童生徒に対して、オンライン学習システム（スタディサプリ）を導入し、不登校児童生徒本人及び保護者の希望に基づき配布
- 今後、更なる有効活用に向けて、関係者会議等により効果・検証を実施

## ③ ゆうゆう広場の現状把握

- 本市の教育支援センターである「ゆうゆう広場」について、登録者数及び一日当たりの利用者数は、減少傾向にある。
- ゆうゆう広場利用者の約7割が「勉強のこと」で困っている。

図5 ゆうゆう広場の登録者数の推移

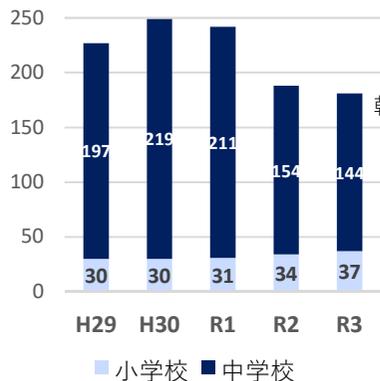
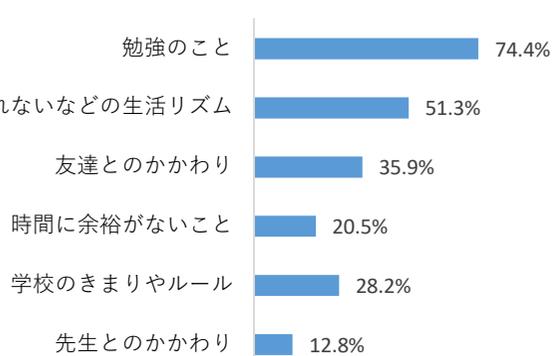


図6 ゆうゆう広場利用者の困っていること



## ④ 不登校特例校の調査・研究の実施

- 今年度、不登校特例校の先行事例の視察やヒアリング等を実施
- 併せて、不登校児童生徒に配慮した教育課程や個々の児童生徒の実態に即した柔軟な支援の在り方等について検討
- なお、令和4年6月の文部科学省の通知※では、「政令指定都市等教育委員会（中略）におかれましては、その設置について積極的な御検討をお願いします」とされている。

※「『不登校に関する調査研究協力者会議報告書～今後の不登校児童生徒への学習機会と支援の在り方について～』について（通知）」（令和4年6月10日）

### 不登校特例校とは・・・

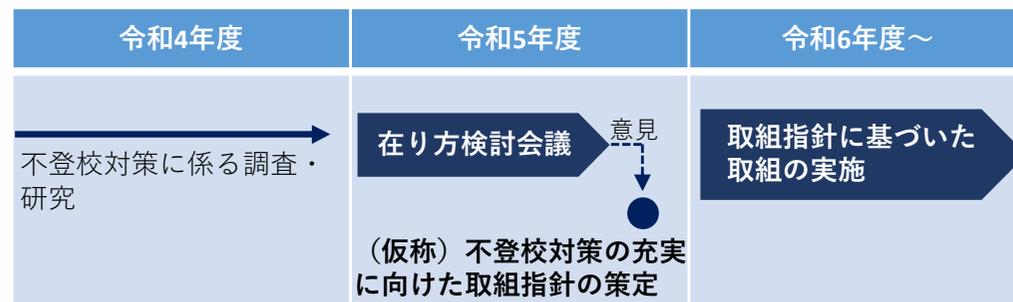
不登校児童生徒の実態に配慮した特別の教育課程を編成して教育を実施する必要があると認められる場合、文部科学大臣が学校を指定し、教育課程の基準によらず特別の教育課程を編成して教育を実施できることとしており、令和4年4月時点で全国に21校が開校している（うち公立12校）。

## 3 今後の方向性

多様で適切な教育機会を確保し、不登校児童生徒の社会的な自立を目指す。



不登校対策の総合的な推進に向けて、令和5年度、不登校対策の在り方に関する検討会議を設置するとともに、「(仮称)不登校対策の充実に向けた取組指針」を策定する。



**参考資料**

**令和4年度  
「別室指導に関する調査」結果**

# 令和4年度「別室指導に関する調査」結果

学校教育支援教育課

1. 調査目的 不登校\*1等、登校の支援が必要な児童生徒に対する各学校の教室以外での指導や支援の実態や課題を把握し、今後の不登校対策を検討する上での参考とする。
2. 調査内容 別室での指導の現状と課題について
3. 調査対象 令和3年度について、不登校等、登校支援の必要な児童生徒（登校はできているが、今後、不登校になる可能性がある児童生徒を含む）のうち、一定の回数や期間に、別室での指導を受けた児童生徒
4. 回答者 川崎市立小学校・中学校・高等学校管理職及び支援教育CO\*2
5. 回答数 小学校114校、中学校52校
6. 回答方法 GIGA端末を活用したGoogleフォーム
7. 調査期間 令和4年7月～8月

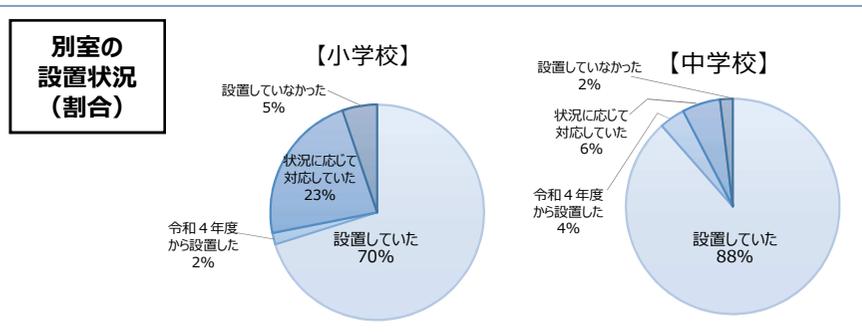
\*1不登校とは、年度間に連続又は断続して30日以上欠席した児童生徒のうち「何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にある者（ただし、『病気』や『経済的理由』による者を除く）

\*2支援教育COとは支援教育コーディネーターの略

## I 管理職向け調査

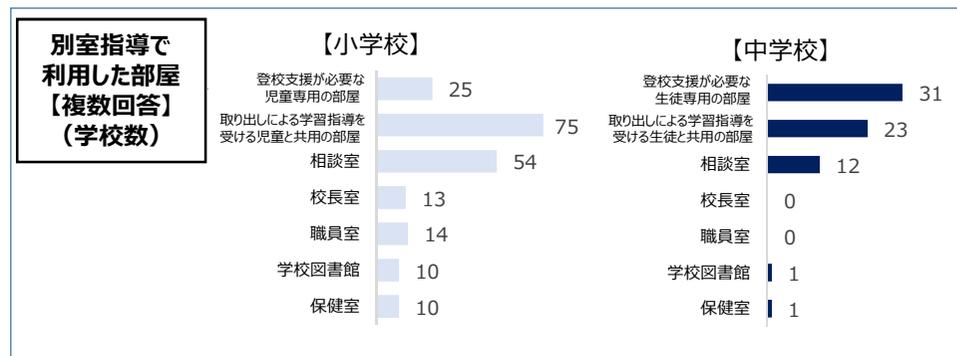
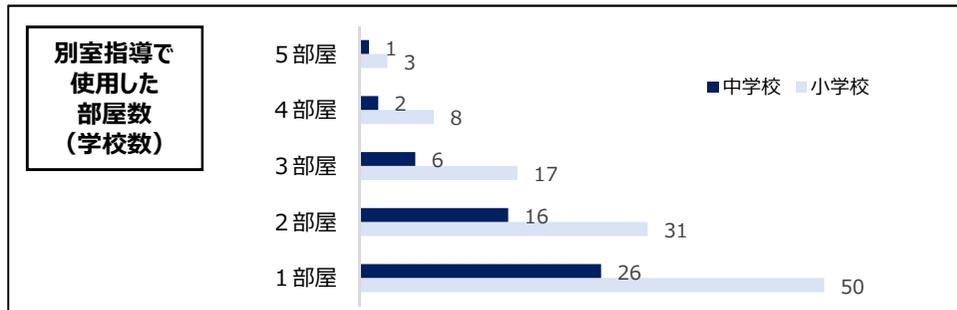
### 1 設置状況

■ 別室を「設置していた」「状況に応じて対応していた」を合わせると、**小学校は93%、中学校は94%と、多くの学校で別室指導**を行っていた。



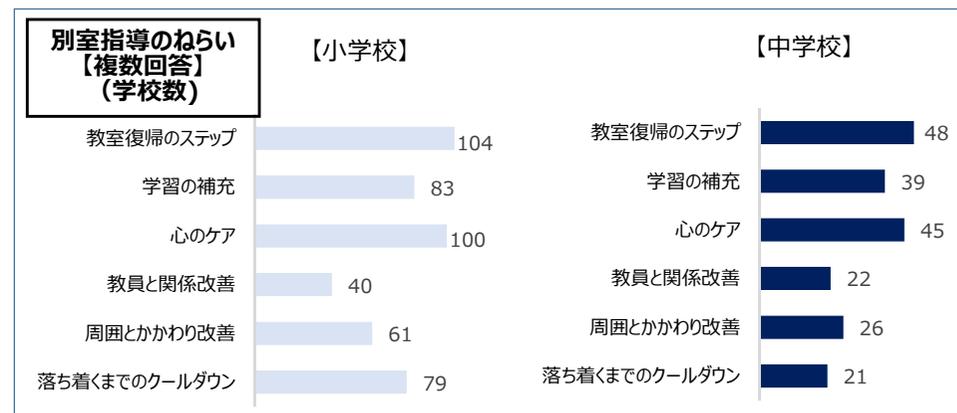
### 2 部屋

■ **多くの学校では、1～2部屋を利用して別室指導を行っていた。**  
 ■ **小学校では、校長室や職員室、学校図書館や保健室等、様々な部屋を利用して指導を行っていた。**



### 3 ねらい

■ 別室指導のねらいは、**小中学校ともに「教室復帰のステップ」「心のケア」「学習の補充」の順に多かった。**  
 ■ **小学校は中学校に比べて、「落ち着くまでのクールダウン」をねらいとしている学校が多かった。**

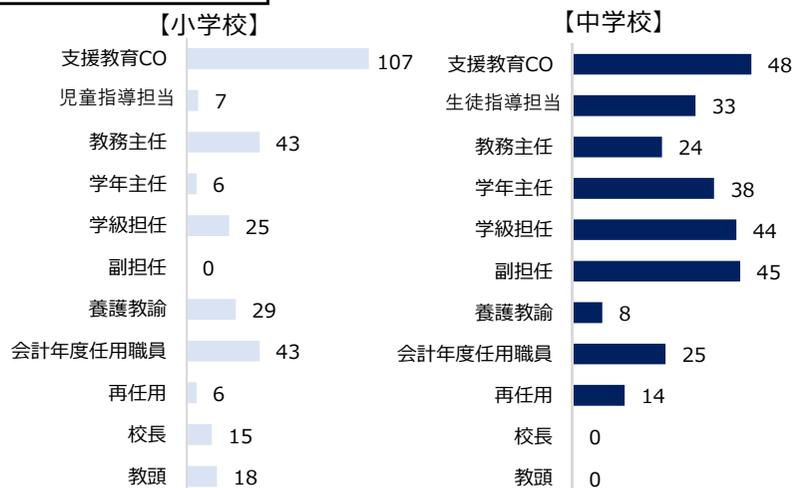


## 4 運営状況

- 運営の中心は、**小中学校ともに支援教育COが多かった。**
- 指導を担当した職員は、**小学校は支援教育COが多く、中学校は支援教育CO以外にも多くの教員が指導**を行っていた。

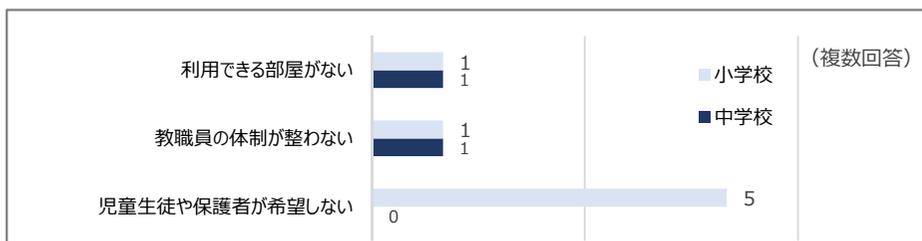


## 指導を担当した職員【複数回答】 (学校数)



## 5 未設置 の理由

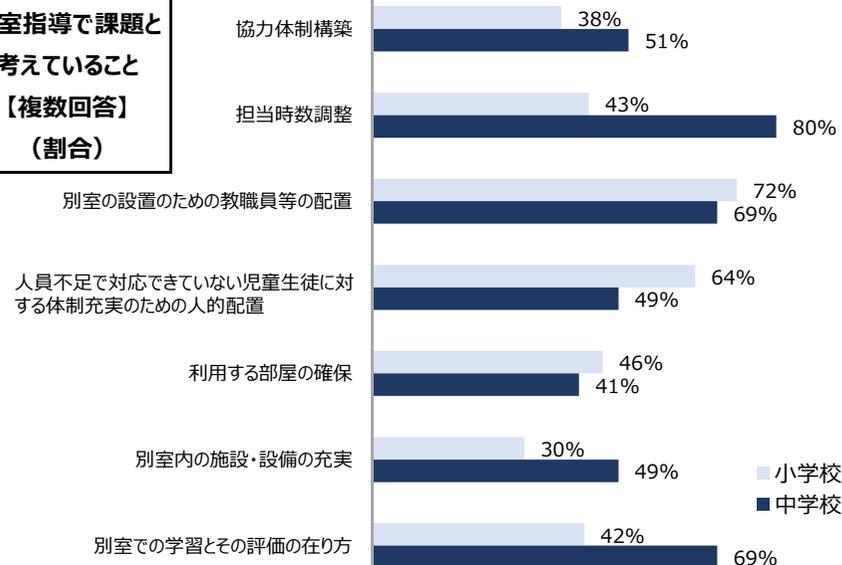
- 未設置の理由では、「**児童生徒・保護者からの希望がない**」が5校と最も多かった



## 6 課題

- **小学校では、「別室の設置のための教職員等の配置」「人員不足で対応できていない児童に対する体制充実のための人的配置」が多く、対応する職員の不足**が挙げられた。
- **中学校では、「担当者間の時数調整」が8割と最も多く、次いで「別室設置のための教職員等の配置」「別室での学習とその評価の在り方」**にそれぞれ7割の回答があった。

## 別室指導で課題と 考えていること 【複数回答】 (割合)



## 〈管理職の自由記述より〉

### (小学校)

- 別室登校を3年間続け、5年生から教室復帰し卒業した子、別室登校ができたことで不登校にならなかった子がいるなど、別室指導は必要な手立てである。
- 別室は、精神的な居場所であるが、学校に来て学ぶ手立てとしても重要である。
- 支援教育COは常時別室対応ができず、他の教員も空き時間がほとんどないため対応が難しい。別室の担当教員が確保できると児童のニーズに合わせた別室指導が充実する。
- 保護者との連携を密に、子どもの気持ちを尊重しながら無理のないように進めている。

### (中学校)

- 学校との関係をつなぎ続けるという面で別室指導は有効。まずは通い続けることが大切。
- 支援教育CO補充の非常勤が配置されたことは、非常に有難かった。
- 年度当初、校長から教職員に別室に対する考え方を話し、共通理解を図っている。
- 支援教育COだけでなく、教頭や養護教諭も生徒とかわかり、情報交換を行った。
- 週に1回、主任会を行い、スクールカウンセラーの専門的な意見を参考にしながら情報交換をしている。
- 定期的に校内支援教育会議を開催し、全教職員と情報共有、合理的配慮・評価・評定にかかる職員研修会を実施した。

## II 支援教育コーディネーター向け調査

### 7 別室指導を受けた人数、不登校の割合、出席・改善状況

- 別室指導を受けた児童生徒数は、小学校では学年が上がるごとに増え、中学校では2年生が最も多かった。
- 別室指導を受けた児童生徒のうち、不登校の割合は、小1～小4は約4割、小5～中3は約6割を占めた。

#### ① 学年別利用者数

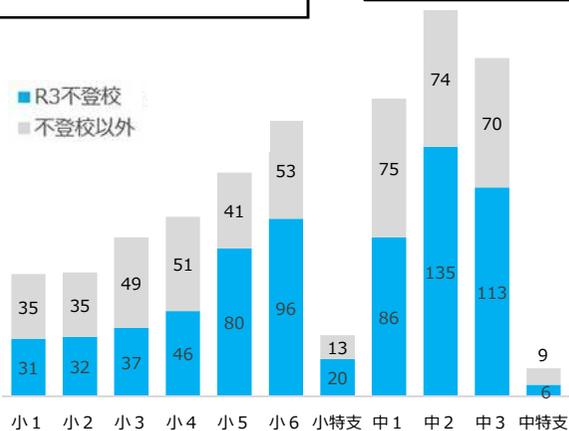
【小学校】 合計619人

1	2	3	4	5	6	支援級
66	67	86	97	121	149	33

【中学校】 合計568人

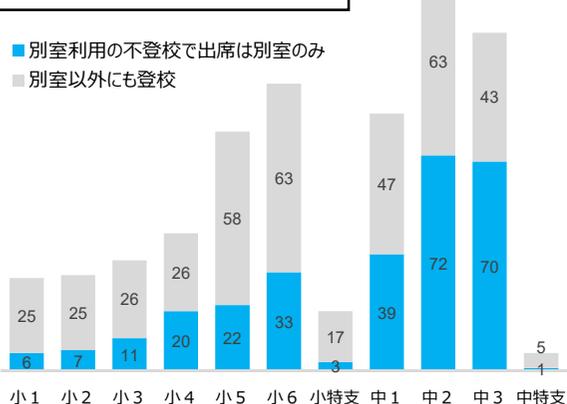
1	2	3	支援級
161	209	183	15

#### ② 別室指導を受けたうち、不登校児童生徒数

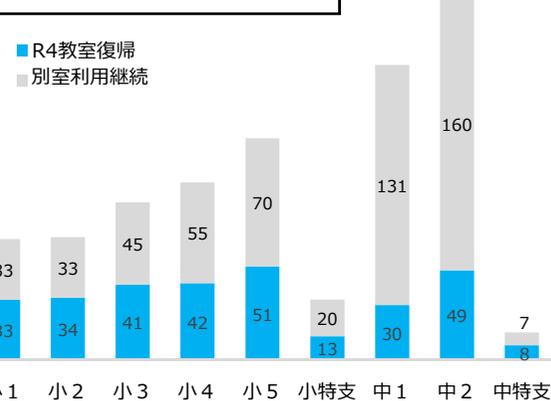


- 別室を利用した不登校の中学生の約半数は、登校した際に、教室等には行かずに別室にのみで過ごしていた。
- 別室指導を受けた児童生徒のうち、状態が改善し、R4に別室指導を利用していない割合は、小1～小3は約4～5割、中学校では約2割だった。

#### ③ 別室利用の不登校のうち、出席が別室のみだった児童生徒数



#### ④ 令和3年度別室指導利用者のうち翌年度教室復帰した児童生徒数

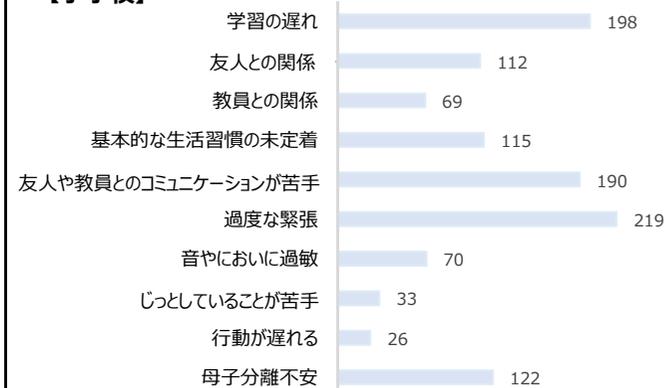


### 8 児童生徒の様子

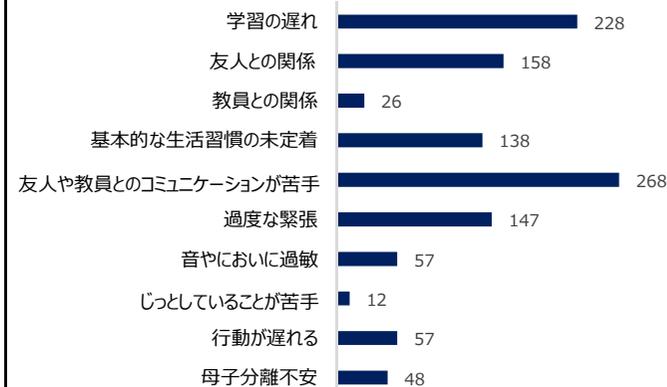
- 別室指導を利用した児童生徒の様子としては、小学校が「過度な緊張」「学習の遅れ」「友人や教員とのコミュニケーションが苦手」、中学校は、「友人や教員とのコミュニケーションが苦手」「学習の遅れ」「友人との関係」の順にそれぞれ多かった。
- 「基本的な生活習慣の未定着」は、小学校115名、中学校138名で、それぞれ4番目に多かった。

#### 利用した児童生徒の様子【複数回答】（人数）

【小学校】



【中学校】



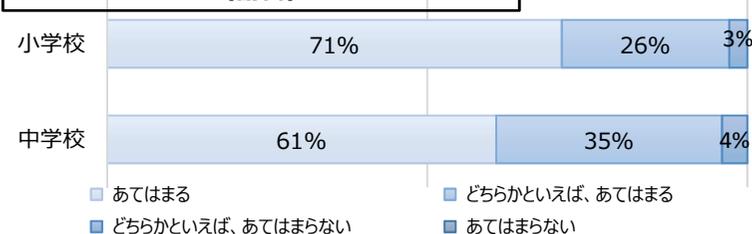
## 9 指導計画

■ 「別室指導開始時に、児童生徒を見立てて計画を作成している」「指導・支援計画等は本人や保護者のニーズを確認している」に「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した割合は、小中学校ともに96%以上と高かった。

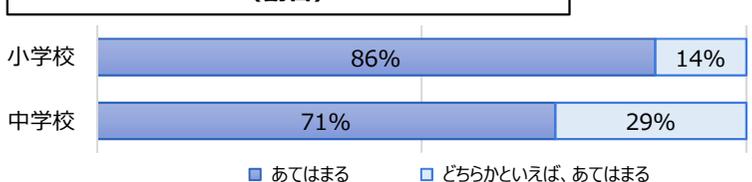
■ 中学校で、支援・指導計画作成時に、「スクールカウンセラーから見立て等について専門的な助言を受けていた」割合は約9割、小学校で学校巡回カウンセラー\*<sup>3</sup>からの助言を受けていた割合は約4割であった。

\*<sup>3</sup> 学校巡回カウンセラーは、R3年度までは要請に応じて派遣していたため、すべての小学校には派遣していない。R4年度からは、全小学校に月2回程度派遣している。

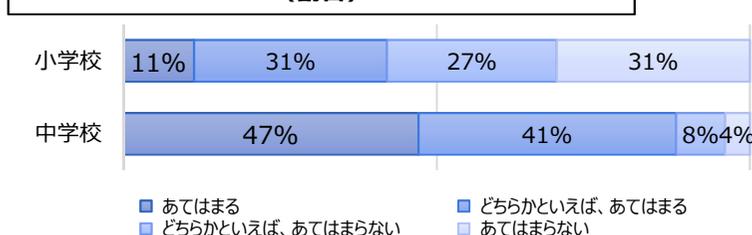
### 別室指導開始時に見立てて計画を作成していた (割合)



### 指導計画等は本人や保護者のニーズを確認していた (割合)



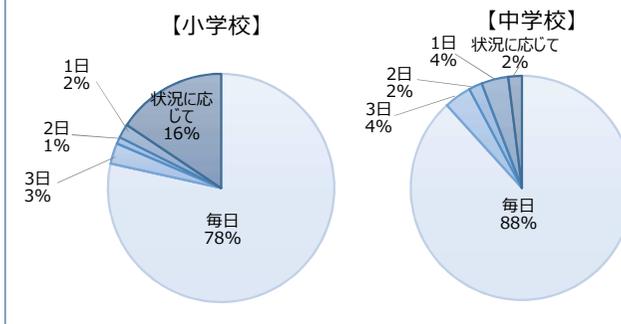
### 指導・支援計画を作成する際、見立て等について学校巡回カウンセラー・スクールカウンセラーから助言を受けていた (割合)



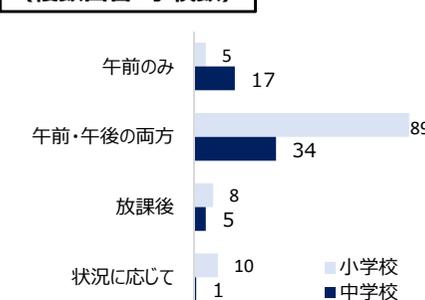
## 10 開室日数時間帯

■ **小学校の78%、中学校の88%で、毎日別室を開室していた。**  
 ■ 小中学校ともに、「午前・午後の両方」を開室している学校が多かった。

### 週あたりの開室日数 (割合)



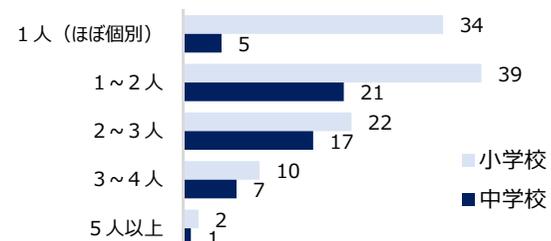
### 開室した時間帯 (複数回答・学校数)



## 11 指導状況

■ **教職員1人あたりが指導する児童生徒数は小学校が1~2人、中学校は1~3人の学校が多かった。**  
 ■ 約3割の小学校では個別対応を行っていた。

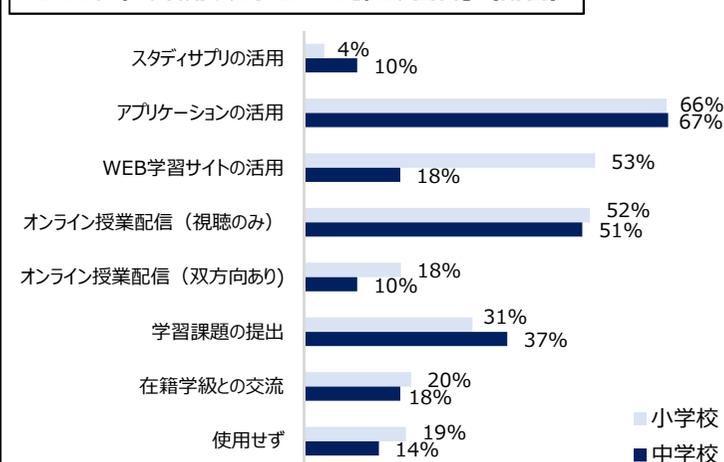
### 教職員1人あたりが指導する児童生徒数 (学校数)



## 12 GIGA端末の活用状況

■ GIGA端末は、**小中学校ともに、「アプリケーションの活用」が最も多かった。**  
 ■ 小中学校ともに、**半数以上の学校でオンライン授業配信を行っているが、「双方向」ではなく、「視聴のみ」の方が多かった。**  
 ■ 小学校では、「WEBサイトの活用」が多かった。  
 ■ GIGA端末を「使用しなかった」学校は、小中学校ともに2割弱だった。

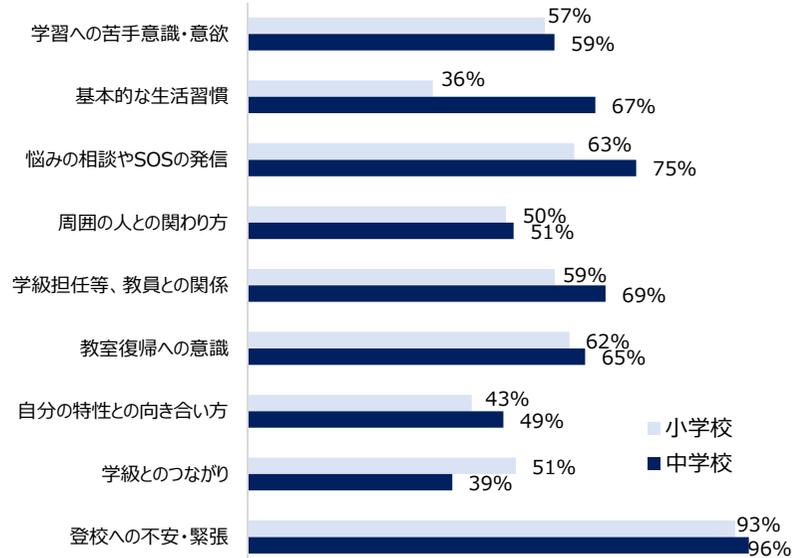
### GIGA端末で活用した学習方法【複数回答】(割合)



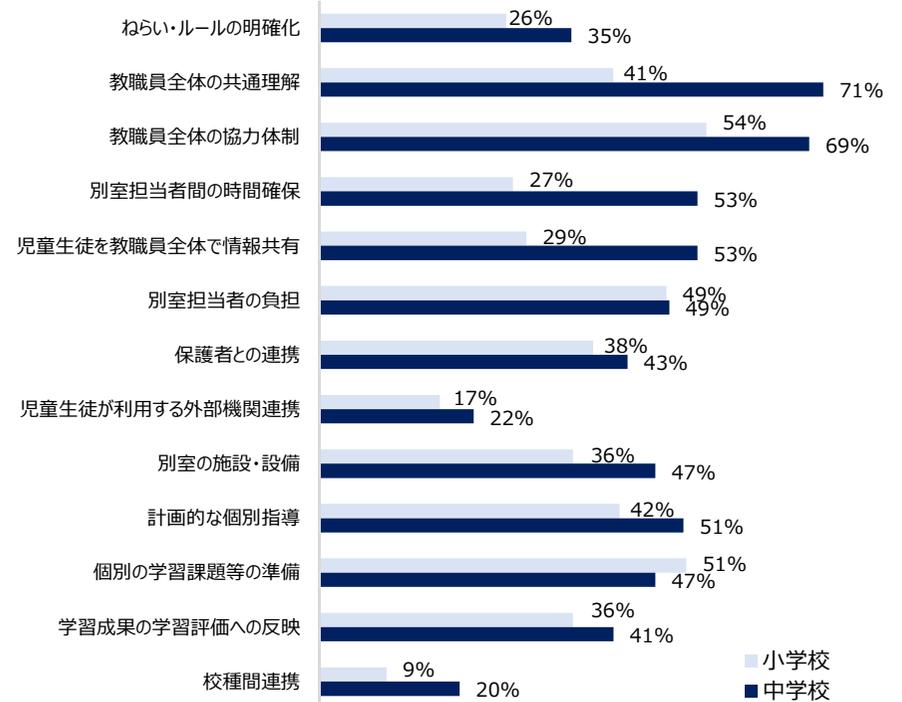
### 13 成果や課題

- 別室指導を通して改善したこととして、**小中学校ともに最も多かったのが「登校への不安・緊張（の改善）」**、次いで「**悩みの相談やSOSの発信**」だった。
- **中学校では、小学校に比べて「基本的な生活習慣」の改善をあげる割合が高かった。**
- **別室指導の課題は、小学校は「教職員全体の協力体制」「個別の学習課題等の準備」「別室担当者の負担」の順に多かった。中学校は「教職員全体の共通理解」「教職員全体の協力体制」「別室担当者間の時間確保」「児童生徒を教職員全体で情報共有」の順で多かった。**
- **整備する必要がある施設・設備としては、小中学校ともに教科学習やコミュニケーション力向上のための「教材類」が最も多かった。**

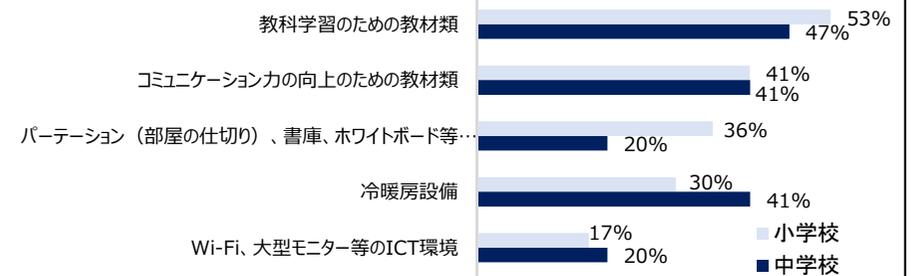
改善したこと、改善が期待できそうなこと（割合）



別室指導における課題（割合）



別室指導を充実させるために、整備する必要がある施設・設備（割合）



#### 〈支援教育COの自由記述より〉

##### （小学校）

- ・別室があることで、学校（社会）や友達とかかわりを持つことができる児童がいる。
- ・不安を抱えている児童にとって、周りの目を気にせず安心して学習に取り組める別室の存在はとても大きい。
- ・別室登校を必要とする児童がいつ来られるかは、その特性上、不安定・不規則なため、常勤の教員が常時別室に待機することはできていない。
- ・教員の人数不足により、必要な児童に十分な個別の支援を提供できていない。

##### （中学校）

- ・本人が自ら学ぶ姿勢を作ることができるため、大変有効に感じている。一人ひとりの学習を保証するためにも必要だと感じる。学習だけでなく、人との関わり方においても大切だと感じる。
- ・「授業の内容によっては参加できる。」「皆と同じように、その日に提出物が出せる。」「集団と一緒に過ごすことは疲れるが、学校の空気を吸うことはできる。」というメリットがある。
- ・不登校の多くの生徒は、本音は学校に行きたい、行かなければいけないと思っている。別室の存在が登校というハードルを少しでも下げ、生徒への一助となればと思う。
- ・せっかく学校へ目が向いてきても、人手がないので細かい配慮ができず、チャンスを逃しているように思えて心配。